ビブリア

No. 44

発行　いわき市平上荒川字長尾30
　　福島工業高等専門学校
編集　図　書　委　員　会
　　昭和56年10月1日

福島高専 図書館報

※巻頭言※

「本とのめぐり合い」

図書委員　数学科　亀　井　宣　男

秋の日はつるべ落し，またたく間に暮れてゆきます。夏が終り気配はすべて秋になっています。秋の夜長，読書には最適な季節になりました。

現在の本校の学生諸君は，一日のうち何時間ぐらい読書に時間を使っているでしょうか？　どんな傾向の本を読んでいるのでしょうか？　芥川賞作品や直木賞作品等いろいろな文学作品がすぐにも映画化，テレビ化される時代ですから，本を読むことから遠ざかっている諸君も多いことと想像し，残念に思われます。

そう言えば，本屋の店先でも若い人は雑誌やマンガに集まっていますが，文学書や教養書を熱心に捜しているのはむしろ中年層が多いように見受けられます。そうであってはいけない筈なのですが，マスコミの発達というのは若い人を本から遠ざける働きをするのでしょうか。

私も最近は学生時代に出会ったような本―読み終った後もしばらくは茫然とした状態になるような―にぶつかることがほとんどなくなっています。最近は良い本が少なくなって来ているとも言われますが，それもあるでしょうが，そう言うことではなく，私の方が年を重ねていくうちに内面の方も変化し，良い本を見つけにくくなっているのでしょう。若さというものは，それ程良いものに敏感で，そしてその事に夢中になれる時期なのだと思います。

今のような時代だからこそ，余計，若い人達に多くの本を読んで欲しいと思います。そして今の時期に一冊でもいい，座右の書と呼べるような本にぶつかって，自分自身をより深く見つめ，ひいては人生をより豊かなものにして欲しいと思います。

めぐり合うことのすばらしさは諸君が一番よく知っているのではないでしょうか。

たった一冊の本が多くの人達の人生をも変えてしまう。大いに読書し，良い本にめぐり合って下さい。

目　次

巻頭言 …… 図書委員・数学科　亀井宣男 1
「葉隠」を読んで …… 電気工学科　岡沼信一 2
さあ，何をしようか―― まず図書館へでも
…… 学生図書副委員長　3M　鈴木健吾 3
小さな灯を掲げる―― 私たちの読書会
…… 3土　神谷光昭 3
古くて新しい本―「学問のすすめ」の勧め
…… 4M　岩田　茂 4
…… 4C　佐藤浩幸 5
世界文学への小さな窓 ―1年生の課題読書 …… 5
友達にも読ませたい本 ―第2回 3年生― …… 14
道しるべ（青年の樹・松浦民平・寺田寅彦）…… 18
夏休み×図書館×学生＝？…… 19
読書コンクールの紹介 …… 20
新着図書目録 …… 21
読んでみませんか …… 24
当館の歩み　56．6～9月中旬 …… 24

「葉隠」を読んで

電気工学科　岡　沼　信　一

「葉隠」と云うと年輩の方々は　醜悪なけがらわしい本という感じを持っておられるであろう。事実,「武士道といふは，死ぬ事と見付けたり……。」で始まる有名な一句は忌わしい狂信的なイメージを持っている。

私が「葉隠」を知ったのは，高校2年生の頃である。ある時，国語の教師が「大雨の戒め」ということで次のような話をされた。途中でにわか雨に逢って，道をひた走り軒下などを通ったところで濡れることにかわりはない。はじめから濡れるものだと得心していれば濡れたとしてもなんら苦にならない。これはすべてに共通する心得である。これは「葉隠」に書かれてある一句であり，一種ひらきなおりと思える壮快さを感じ，以後「葉隠」を読み始めるきっかけとなった。

「葉隠」は今から約300年前の元禄時代に，佐賀藩士山本常朝という人の語るところを同藩士田代陣基が筆記したものであり，常朝はその筆記を焼き捨てよと命じたが，陣基が秘かに保存したものである。この「葉隠」は武士としての心構え，生き方を教えているもので，宗教や道徳書ではない。「葉隠」を読み始めると，まず，我々は死の職業を持つ武士ではないという前提の違いにぶつかる。しかし，この事を越えて読み進むと，そこには現代にも応用できるさまざまな知恵があり，おもしろい。たとえば次の様な句がある。

「覚の士，不覚の士……。」　覚の士，不覚の士ということがある。すべて事前に覚悟し，決めておき，いざというときたとえ間に合うように見えても幸運でそうなったのであり，事前にいろいろと研究しないのは不覚の士である。また、同じ様な意味で次の句がある。「大事の思案は軽くすべし……。」　大事というからにはそう多くない。この様な事は普段から考えておけばわかることである。だから大事に際しては普段考えていた事を思い出して簡単に処理する必要がある。これらは名誉を重んじ，一瞬一瞬が死ととなり合わせに生きている武士の心構えとしてはもっともであるが，現代の我々にも通ずるものがある。

また，先の「武士道というのは，死ぬ事と見付けたり……。」の句は，生きるか死ぬか二者択一を迫られた場合には死を選んだ方が良く，理屈を付けて生き延びるのは恥ずかしいことであると云っている。この句は読み方によっては死を美化する危険な句である。しかし，この句は「葉隠」にとって中心的な考え方であり，常に死身になることによって自由，すなわち生を得るという独特な考え方である。死を覚悟することがそのまま生きることにつながるものであり，その気構えを教えている。というのは，この本の後のほうでは「人間一生誠にわずかの事なり。好いた事をして暮らすべきなり。」と云っている。これは先の「武士道といふは死ぬ事と見付けたり……。」の句とまったく逆の事である。一方では死を選ぶべきだと云いながら，一方では好いた事をして生きよと云っている。しかし，両者は一見矛盾するようではあるが，両方とも生きる為の方法であり，先の句は逆説的なものと判断すれば納得がいく。

ここまで書くと「葉隠」は，何か堅苦しい教訓だけが書かれているような感じがするが，日常生活の実際的な教訓も数多く述べられている。中でもおもしろいのは「あくびを止める法」である。大事な場所であくびが出そうになった場合には上唇をなめると良い。などがある。私もあくびが出そうな時，上唇をなめるというのは実行しており，誠に良く効くものだと思っている。

私が「葉隠」を読み始めたのは，十七，八の頃であり，その頃はこの本の意味する所もはっきりわからず（現在でも同じであるが）ただ，物事をきっぱり言い切る壮快さに魅かれていた。しかし，数年たち，折りにふれてあるページを読み返すとき，感銘を新たにするのはこの本だけである。この様に「葉隠」は、刺激的で力強くさわやかであり，私が今まで読んだ本の中でもっとも強烈な印象をもっている。

最後に，私が読んだ「葉隠」の訳本を紹介しよう。

葉隠（上），（中），（下）
和辻哲郎，古川哲史校訂
（岩波文庫）

葉隠　奈良本辰也訳編　（角川文庫）

さあ、何をしようか
—まず図書館へでも—

学生図書副委員長
3M　鈴　木　健　吾

夏休みも終わり涼しい日が続いています。今年入学した1年生諸君も，ようやく落ち着きをとりもどし，学園生活を満喫できるようになってきたのではないでしょうか。9月は秋の初めであり何事でも快適にすることができる季節であり，勿論，読書にはまたとない季節です。何をするにもやる気のでてきた1，2年生諸君!!　ここらで読書でも始めてみればいかがでしょうか。

毎年，我が校では1年生の図書館利用の度合いが非常に少ない。これは本を読む事が最も必要な君等にとって本当に残念なことです。中学・高校を通してこの時期は精神形成上，最も大切な時であり，読書をするのにも又一番適した年齢であることは誰でも十分ご存知のことと思います。もしこの時期にその機を逃がし，そのまま社会に入ってしまったら，たしかに専門書などはかなり読むことと思いますが，文学に親しむ機会はあまり，とりわけ，会社などに入ったのならその2，3年はほとんどその機会を無くしてしまうでしょう。

高専という所はその点，5年という間に大学受験などというものもなく，とりわけ進学校などに比べれば受験勉強のためのロスもなく，やる気さえあればたとえどんな事であろうとも，それに十分うちこめる結構都合のいい学校なのです。こんなに良い所にいながらそれを失うのは残念至極，是非その様な事になりませんように。これを読んで下さった方も，これを機に本を読んでいただけるようになれば，これからの考え方も生活の仕方もずいぶん変わり，より有意義なものになることだろうと思います。

さて，役目がらこの様な事を述べてきたわけですが，私自身，他人にこの本がどうだのこうだのと本を勧める程読書量をこなしているとはさらさら思ってはおりません（勿論，ある程度はしていますが）。だからといって以上に述べて来たことが嘘だというわけではないのですが，何かに夢中になることが読書に劣るなどということも決して思ってはいないのです。

私がこの文章を書こうと思いたったとき最初に頭に浮かんだのが，この言葉でした。『さあ，何をしようか。』以前はこの言葉が頻繁にでてきました。何も目標がなかった私は，毎日何のあてもなく過ごしており，実際，何もすることがないというのは楽しくも何ともないもので，ただ目の前を通り過ぎてゆく時間が空しく，やるせない気持ちが心の大半を占めていたようです。こんな時の私の心の支えは，『さあ，何をしようか。』という言葉なのです。これを言うと，自分は何かしようとしているんだとか，がんばるぞとかいう気持ちがわき起こり，からだ全体に活力が吹き込まれていくような気持ちになるのです。勿論，実際にその場ですぐに何かできるわけではないのですが，一種の自己催眠のようなものなのでしょう。

さて，何はともあれ，何回もそんな事を思っていると単純な本人は，とにかく何かをしてみたくなり，私の場合，出かけたのが図書館のわけです。そこで目につく本をかたっぱしから目を通してみたのです。そしてどうやらおもしろそうだと思ったら今度はじっくりと腰をすえて読んでみる。何度もそんな事をやっている間に，高専にいる間にやってみたいという目標も自然と決まり，今は退屈することなく学園生活を送っています。

こんな事は参考にもならないことだとは思いますが，こんな考え方をする者もいるんだということがわかっただけでも少しは役にたったのではないでしょうか。

文が2段構造になってしまい，支離滅裂なものになってしまいましたが，御理解いただけたでしょうか。前期末試験を終えればもう10月，秋本番を迎えます。みなさんも今年の秋を実り多いものとする為に，今からでも何をしてみるか決めてみてはいかがですか。高専時代に何もしなかったと悔の残らないように。

小さな灯を掲げる
私たちの読書会

3土　神　谷　光　昭

私も御多分にもれず，小さい時から読書というものに親しんできました。兄弟が無く，両親が共稼ぎだった私にとって，本とは，絶好の遊び相手だったのです。誰もいない家の中で，よく声を出して本を読んだものでした。そのせいか，小学校の4年生頃から急に視力が落ち，一時は弱視児童専門の特殊学級行きの話も出たくらいでしたが，それでも本を離さなかった事を覚えています。

小説などに手を出したのは，中学の終わり頃からだと思いますが，本格的には高専に入学してからしばらくして，身の廻りが落ちついてからだと思います。その頃はよく中学や高専の国語の教科書などに出てくる作

家の作品などを読んだように思います。ヘッセの「車輪の下」，有島武郎の「生まれ出づる悩み」，堀辰雄の「風立ちぬ」などが，印象に残っています。では，なぜそうなったかと言えば，小説は読んでみたかったが，何を読んだらいいかわからなかったからです。ましてやその頃の私は，現代作家の小説などはほとんど読んだことがありませんでした。こんな状態だったせいか，その頃の私の読む小説と言えば，限られた時代の限られた作家によるものばかりだったのです。

そんな事もあってか，その頃から私は読書好きな者たちが集まって，自由に本についての情報交換をする場があればどんなにいいだろうか，と思うようになりました。また，みんなが１つの作品と取り組み，意見交換をし，各自の思索を深めたりする，そんな集まりがあれば，と思うようになっていきました。

こんな事を考えるうち，ふとしたことから英語科の西山先生と寮の下級生達と話がまとまり，読書会なるものを発足させる事になりました。今年の２月の事です。

現在は，月に１，２回集まって前の月に決めた本について感想を話しあい，次の月に読む作品を決める，といった風に行っています。メンバーは寮生，通学生合わせて10人ぐらいです。

今まで採り上げた作品は，星新一「明治・父・アメリカ」，新渡戸稲造「武士道」，内村鑑三「余は如何にして基督信徒となりし乎」，渡辺淳一「花埋み」，デーデキント「数について」，三浦綾子「塩狩峠」，などで，「余は如何にして…」は，英語の渡辺先生から，「数について」は，数学の山野先生から，それぞれのご専門の立場からお話をしていただき，とても有意義な会合を持つことができました。これからは，小説だけにとらわれず，詩や哲学や倫理学や，いろいろな分野の本を採り上げてみたいと思っています。

高専という学校は，試験に追われる事もなく，普通の高校などに比べ，時間的にもゆとりがあると思います。それをどう使うかは，各自の自由ですが，高専の学生として，ほんとうに大切な事だと思います。その点から見ても，私達のしている事は決して無意味ではないと思っているのです。

古くて新しい本　福沢諭吉「学問のすゝめ」の勧め

有名すぎたり，また，あるていどその中身（の一部）を知っていたりすると，原物にはなかなか取り付かないでしまう著作が少なくない。しかも表現が文語体や漢文口調によるものであると，現代っ子には頭から敬遠されてしまう。

そのような名著にあえて触れさせ，若い諸君の魂をゆさぶろうと期するのが，４年選択国語の四つの講座であるが，今回はその中の一つを取り上げてみた。

・伊藤正雄校注　旺文社文庫　　・伊藤現代語訳　現代教養文庫

なお，081．F．福沢諭吉選集　全14巻　岩波書店が目下刊行されつつある。　（国語科）

4Ｍ　岩　田　　茂

僕は，これを読んで初めて福沢諭吉なる人物に接することができたと思う。それ以前は，単に歴史上の偉人ぐらいにしか思っていなかったし，どこがどのように偉人なのかも知らないまま，ただ漠然と抽象的に彼をとらえていた。しかし，これを読んでから彼に対する考え方が，がらりと変った。

まず，驚いたことは，明治７，８年頃に書かれたこの本の内容が，約百年過ぎた現在にも痛切にあてはまることであり，少しも古さを感じさせないことである。よって，これを読むと諭吉の言わんとしている趣意がひしひしと伝わってくるし，同感せざるを得ない。それに思ったことをためらわずに，ずけずけと書いているのだが，なぜか憎めない，要領を得た作品である。

もちろん，この作品が単なる主題と情感だけで支えられているのではないことが分かる。そこには，諭吉の並々ならぬ文章技法への配慮を伺うことができる。彼の比喩，キャッチフレーズの巧みさには，ひたすらに頭が下がるばかりであり，あらゆる行が具体的なイメージによって堅固に裏打ちされ，しかもユーモアに富んでいる。ただ残念なことは，文語体で書かれてあるので，現代語との間にどうしてもギャップが生じてしまい，すぐには馴染めないことである。国語・漢和・

古語辞典を駆使しないと理解できないことが少なくはない。

全編にわたって，諭吉の繊細なまでにただ人ならぬ性格がうかがうことができる。彼は，おおよそ，頑強なくらい信念のしっかりした人物である。しかし，かなり言い過ぎた所があると思う。例えば，実力のない者，愚人を心底から嫌い，猛烈に皮肉っている。楽しく読めるのだが，どこか，自信過剰の点があると思う。

でも，やはり傑作であることは間違いない。彼の場合は，自由闊達に書くことによって，味が出るのだろう。福沢諭吉，以前は固い人間だと思っていたが，なかなかおもしろい人物だ。

59年の秋から，彼は1万円札に聖徳太子に代わって印刷されることになった。これも，誰もが偉人と認めるゆえんであろう。

4C　佐藤浩幸

「学問のすすめ？……」

「ああ，福沢諭吉の（天は人の上に人を造らず，人の下に人を造らず）か……。」

自慢していいことか，恥ずかしいことか，これから授業の教材となる「学問のすすめ」についてこれだけ知っていた。たぶん小学校の時，習っておぼえていたのだろう。今までは，これだけ知っていて充分だったし，（これだけでテストも乗り切れた。）これだけで「学問のすすめ」の全部がわかっているといった気でいた。おそらくこれを読んだことのない人の大部分はこの考えでいるだろうし，読んだ人でも，読む前はこの考えだったろうと思う。しかし，授業でこれをやって，また自分で読んでみて，これは今の私達の年代の必読書じゃないかという気になった。何故なら，明治初期に書かれたものであるから少し大げさな所もあるが，実にいいことが書かれてあるからである。

「学問のすすめ」が，日本の近代化に果たした役割は実に大きかったようだ。それどころか，これによって明治文化（日本の民主化）の進路は決められたといっても過言でないくらいらしい。当時の多くの若者がこの本を読んで，自分自身で目覚めて，従来の殻を破っていたのだろう。私は，今の時代にも適応できるこの本の説こうとしているものが，当時の人々に広く受け入れられて大盛況を呼んだのはわかるような気がする。

一つに，この本の内容が今の時代にも当てはまるのだから，当時にしては大袈裟だったかもしれないが，少しでも今の時代に向かおうとしている時期だっただけに，諭吉の考えは，理想も理想，大きな理想として逆に受け入れられたのかもしれない。また，この本を一編ごと一冊ずつ出版したのがよかったと思う。もし，この本が今同様に全編まとまって一冊で出版されたら，「むずかしい本」とレッテルをはられて敬遠されたと思うから。また，諭吉の文章を書くうまさが受け入れられたと思う。諭吉自身作った言葉も使用されてむずかしい面もあるが，全体として，文章が短かめで，例が多く載せられている。これは，今読んでいても気分がいいくらいである。まだまだいろんなことがあるだろうが，「学問のすすめ」が当時多くの人々に受け入れられた理由として，こんなところではないかと自分なりに分析してみた。

何故分析したかというと，「学問のすすめ」の良さを理解するためである。この良さは，当時も今も変わりないと思う。「学問のすすめ」の精神が今の時代にも当てはまる。改めて，諭吉のすごさを考えてさせられた。と同時に，この必読書をもう一度念入りに読んでみようと思った。

世界文学への小さな窓
—1年生の課題読書—

本校生の幅広い読書領域の中でも，各種の実態調査から，世界各国の近代の一流文芸作品には，割合い，食指が伸びていない。みずみずしい感性と深い人生観を養う上で物足りなく思われる。

今年度の1年生には，積極的（半強制的？）にその機会を提供すべく，特定著書・作品群を指定して，夏休みの課題に読後感を書かせて見た。

桑原武夫氏がその文学入門（岩波新書）の巻末に掲げた世界近代小説五十選から23種，これに岩波文庫解説目録で文芸およびその他の分野の名著22種を加えた。

その45種について読まれた物の分布は別表の通り。

学生諸君が，一応の目安として，せめてこれ等の中から，一種でも多く在学中に読んでくれるよう願いつつ，多く読まれた物から，10幾編宛ずつ，今・次号に紹介してゆく。　（国語科）

No.	国	作　　品	作　者	度数	No.	国	作　　品	作　者	度数
1	ドイツ	車輪の下	ヘッセ	34	12	フランス	女の一生	モーパッサン	3
2	〃	若きウェルテルの悩み	ゲーテ	19	12	ロシア	大尉の娘	プーシキン	3
3	イギリス	宝　島	スティーブンスン	12	12	フランス	赤と黒	スタンダール	3
4	ドイツ	水と原生林のはざまで	シュヴァイツェル	11	17	ギリシア	イソップ寓話集	イソップ	2
5	アメリカ	黒猫・モルグ街の殺人事件	ポ　オ	8	17	ドイツ	黄金の壷	ホフマン	2
5	イギリス	ジュリアス　シーザー	シェイクスピア	8	17	イギリス	嵐が丘	エミリブロンテ	2
7	フランス	マノン・レスコー	アベ・プレヴォ	7	17	〃	テ　ス	ハーディ	2
8	アメリカ	武器よさらば	ヘミングウェイ	6	17	フランス	レ・ミゼラブル	ユーゴー	2
8	ギリシア	ギリシア神話	アポロドートス	6	17	〃	ジャン・クリストフ	ロマンロラン	2
8	ドイツ	アルト・ハイデルベルク	フェルスター	6	17	ロシア	罪と罰	ドストエフスキー	2
11	アメリカ	緋文字	ホーソン	4	17	アメリカ	フランクリン自伝	フランクリン	2
12	〃	白　鯨	メルヴィル	3	17	イギリス	ロビンソン・クルーソー	デフォー	2
12	〃	ハックルベリイフィンの冒険	マークトウェイン	3					

老人と海（ヘミングウェイ），高慢と偏見（オースティン），死せる魂（ゴーゴリ），幽霊船
アンデルセン童話集（アンデルセン），ガリヴァー旅行記（スウィフト），父と子（ツルゲネフ）――各1

車輪の下

1M　増子卓哉

目をつぶると，そこには地平線の彼方まで続く長いレールが見える。その上を僕が懸命に走っている。その僕の影に悲しい彼の影がだぶる。ハンス・ギイベンラアトだ。

そして彼は悲しい目をして，僕を見つめて落ちてゆく。

「きみは下劣な卑怯者だよ，ギイベンラアト。――なんだ，ちきしょう。」

ハイルナアの声だ。僕も彼にそう言ってやりたい。

「そんなにきみは弱かったのかい，そんなにきみはいい子でありたかったのかい？」

しかし，彼はそれにも答えられないほど疲れ切っていたのかもしれない。あの青い錠前屋の服を着て。

でも僕はその弱さにひかれたりはしない。むしろ否定する。ただ「今」にしがみついていたいために勉強して，何のために，何の意味があるのだろう。勉強ができるってことが人生のすべてではないはずだ。

前に見くだしていた人間と同じようなことをするのであっても，自分を生かすような道は，いくらでも残っていたはずだ。

たしかに，親は勝手に彼に大きな期待をかけ，学校側の虚栄心も暴力的であったかもしれない。

幼い頃から，彼の愛していたすべてのものをとりあげ，ひたすらに勉強だけをさせた。それが彼を，優越感におぼれさせ，まわりを軽蔑し，他人の目を気にするような人間につくり上げてしまったとも言えるだろう。

「自己」をもたず，視野が狭い人間　そんな彼がハイルナアを愛したのは何だったのだろう。自分とは全く異なった空間を持ったハイルナアとの時間は，彼の唯一の幸福の時間だったのかもしれない。ハイルナアが去った後，ぼろぼろになったハンスが故郷に帰ってくる。こんな彼にこんな言葉を言うのは残酷だろうか。

「悲劇のヒーローはそんなにいいのかい？」やはり彼は甘えていたのだと思う。愛に飢え傷ついた彼の「死」は，最後の甘えだったのだと思う。

今，僕は青春の真ただ中，受験を乗り越え，好きな野球に明け暮れている毎日。そんな僕は幸せなのだろうか。

僕は逃げ出したりはしない。自分自身で選んだレールなのだから。そして進んで行くのも自分の足である。自分だけではなく，世界を見つめて走ろうと思う。

ふと，ハンス・ギイベンラアト，彼の死顔が，微笑んでいたように思えてくる。

1M　山本勲一

「車輪の下」を読んでの，ぼくの，第一印象は，主人公「ハンス」がぼくに似ているなあという事です。州試験の事，寮の事などです。州試験では，ハンス自

身は，落第したものと思いこんでいたが，二位で合格しました。ぼくも，高専の入学試験，特に一次試験の時は，完全に失敗したと思い，まだ結果が出ないうちに，悔し泣きもしました。それで，ぼくが，合格の知らせを受けたのは，ちょうど後期末試験の最中でした。その時は，さすがにテストが手につかなかったです。ハンスも担任の教師や校長から合格の知らせを聞いた時には，すべての物が美しく見えただろうと思います。また，父に合格の知らせを聞かせるという事も，一段と良い気持ちにならせただろうと思います。

寮の事では，ハンス達の寮の雰囲気と，ぼく達の寮の最初のころの雰囲気が，とても，似ています。お互いに，知らぬ人達ばかりで話す事といえば，必要な事に限り，その周りに親がうろうろしている光景などがその内容です。でも相違点が一つあります。それは，ぼくは，家に帰りたくてしょうがなく，家に帰るころになると，うきうきしてきましたが，ハンスは別の様でした。

合格して遊んでいる事も，似ています。ハンスは釣りでしたが，ぼくは，ラジコンです。ハンスが一週間前に休みに入ったのと同じく，高専の入学試験は，少し早かったので，みんなが入試を控えて勉強しているのに，ぼくとハンスは，それこそ違うけれども，遊んでいたのです。

第二の印象は，神学校をやめさせられて，また，やめさせられるような事になってしまって，非常にかわいそうだなあと思いました。なぜ，あんな風になってしまったのだろう。やはり，神学校に入学する前の生活での，教師の態度や校長の考えが，ハンスをあのような姿にし，ハンスを死まで追いやったのだと思います。しかし，神学校の校長は別だと思います。既にその原因を知っていたかのように，「決して弱気になってはいけない。さもないと，車にひかれてしまうよ。」という，励ましの言葉をハンスに送っています。これこそ，おとなの無理解という圧力につぶされないようにするための，忠告だと思います。

退学してからの生活も，ハンスがみじめでかわいそうでした。

一番，嫌っていた職業に就くことになり，慣れない仕事をさせられることになってしまったのです。好きな女には，ばかされて，しまいには，あまり飲めない酒を飲んで，だれも知らないうちに死んでしまう。

大人の利己主義の犠牲になってしまったのです。

ぼくは，この本を読んで，社会を見る目をいくらかは，養う事が出来ただろうと思います。

若きウェルテルの悩み

1C　三戸　乙彦

「若きウェルテルの悩み」を読んで、ぼくは、人間の生き方そのものを考えさせられました。

ウェルテルは、ロッテに全人的な愛を求めた。しかし彼の宿命的な恋人ロッテがやがて人妻となることはわかっているし、また人妻を恋することは、浮世の掟が許さない。そういうどうにもならない状態から脱出して愛を永遠化するために彼に残された唯一の道は、すなわち死だったのである。永遠の生命を信ずることなしには、死は単にあらゆる希望を閉ざすものでしかない。しかも、死へのあこがれは、ロッテを愛する前にすでに彼の心のうちに芽生えていた。現に彼は、「そういう人間はどんなに浮世の束縛を受けていたって、いつも胸の中には甘美な自由感情を持ち続けているんだ。自分の好む時に、現世という牢獄を去ることができるという自由感さ」と、手紙に書いている。

こうまでしたウェルテルに、自分は驚きと疑問を抱いている。それは、はたして死によってウェルテルは何をつかんだのだろう。永遠の愛を、というつもりで死んでいったのだろうか、なぜ自殺することによって愛がつかめるのだろうか。要するにロッテから逃げているのではないだろうか。いや、ロッテからというより現実の社会から逃げようとしているにちがいない。かなえられない愛にたち向かわず、現実の社会に忠実に従っているだけなのではないだろうか。この若きウェルテルの悩みを読みながら、自分は多くの疑問を感じ、また自分の生活とあまりにもかけはなれているのに、理解しずらかった。

ただ主人公ウェルテルの性格について理解できたことは、豊かな感情を持っているということ。そして、ひたすら自己の感情に忠実で青春のエネルギーのすべてを、もっぱら自己の内部に向けるのみで、現実の社会に適応し、そこに自己の生活を築きあげることを知らない青年の悲劇を感じた。

宝　島

1C　移川　俊英

この宝島は　ロバート・ルイス・スティーヴンソンの最初の長編小説である。私は，この本を初めて読んで，本当の話だと思った。そして，あとがきに小説と書いてあったので驚いた。

この本を読んで，人間はお金の事や自分達の幸せのために人間を忘れてしまう，舟のりの部下達も最後には仲間割れをし，人殺しをするほど悪魔が乗り移ってしまう。お金とは恐ろしいものだ。一瞬にして人を悪魔に変えてしまう。だから，お金はあまり喜ばしいものではないと思った。

私は，今まで長編小説を読みきったことはなかった。初めてこの『宝島』で最後まで読んだことは嬉しかった。最後まで読めた原因は，なんといってもスリルだろう。主人公ジム・ホーキンズが殺されそうで殺されない場面や，ジムの舟を取り返す場面などは，はらはらした。

宝島への航海への始まりは1本足のフリントが宝島の地図を持っていたから，もし持っていなかったら危険な航海へと行かなかったと思う。フリントの言葉に「医者なんてやつらは，みんな阿呆だぜ」
と，言う言葉があるが，私もその通りだと思う。みんなとは言わないけど，ほんの一部分にお金があれば，簡単に入れるし，許可もなく病室を設けて運営している医者もいる。だから私も阿呆だと思う。

この本で，悪党のピューとその仲間が，身に危険を感じたとき，手下はさっさと逃げ，目くらのピューは殺された。ビッーの言葉で「おめえたちは年寄りのピューをおいてくんじゃねえだろうな，兄弟，── 年寄りのピューをよ！」
と，この言葉で，私は，笑いが出た。いくら兄弟だといわれても，自分の命が大切だからさっさと逃げて行ったのだろう。人間とは哀れなものだ。航海へ出発した頃は，みんな仲良く，舟のりはまとまりがある，それに気は荒っぽいが，本当はいい人ばかりだと思った。が，宝島が見え始めた頃になると，まとまりがあるとほめたけど，悪い方へまとまりがついてしまった。
水夫達は，宝を目の前にしてから人が変った。悪魔が乗り移った。だから人間は哀れな物だ。自分のいい方に事を持っていき，我を知らない。

この本を読んでわかったことは，ラムは酒の一種，舟乗りは，気が荒いがとてもいい人，オウムは百歳も二百歳も生きる，身に危険を感じた時，死に追った時には，頭がかしこく働き自分を助けたがる，人というものは信じきれないことなど。

宝を手に入れたのは，ジムの人柄の良さがあったから，殺されもせず生きのび，かつ，宝が手に入ったのだろう。悪の親玉シルヴァーがジムを殺さなかったのは，私の考えによると，シルヴァーは誰よりもジムを信じていたからではなかろうかと思う。

私は，この本を読んで，根本にやはり人間の心の弱さを強く感じた。私でもおもしろく最後まで読めたのだから，みなさんにもこの本をお勧めしたい。

水と原生林のはざまで

1E　福家　広之

ぼくが今までに読んだことのある本と言えば，よくテレビのコマーシャルで宣伝しているような小説や，アルセーヌ・ルパンのような，昔からの古典的な推理小説など，あまり感情の沸かないものの他に，学校で出された課題のために読んだ一般に有名な文学小説ぐらいであった。だから，この「水と原生林のはざまで」のような体験記は，教科書にほんの少し載っていたものに目を通したぐらいで，単行本を丸一冊読むことは初めてと言ってもよいくらいだろう。

さて，このような種類の本は読んだことがないに等しいので，最初は全部最後まで読み終えられるのか不安だったが，読んでみるとけっこうおもしろくて，意外に早く読み終えた気がする。実際にはかなりの時間がかかったのだが，本当に時間を長く費したのに気がつかない程であった。それだけに，読み終わった後の満足感は言い切れないものがあった。

シュヴァイツェルのとった行動は，ぼくたちにとって見本ともなるべき生き方だったと思う。当時のヨーロッパ人は，新しい市場を求めて次々と植民地を増やして行き，その結果，遠い国の病気を各地に広めるはめになったのである。そして驚くべきことに，その病原菌のために，アフリカの土人の部落の人数が急激に減少したり，中には全滅というところもあったという。このようなことから，シュヴァイツェルのような人が

出て来てもそう不思議ではないようだが，いざ実行となるとそうはいかない。彼のようにかなりの費用と高度な医学知識，それに強い意志を持った人間であったからこそ出来たのかもしれない。ぼくにその三つの中の前の二つがあったとしても，最後の強い意志に欠けるので彼にはとても追いつけないであろう。

彼がアフリカに来てからの苦労はとてもすごい。現代のぼくたちの生活の上では思いもつかないことばかりである。数か月たつと，たいていのヨーロッパ宣教師やその家族は帰国してしまう。それは疲労のためである。このアフリカの生活を実際に体験してみればわかるはずだ。ぼくであれば二日ももたないであろう。それを彼はやり通したのである。それだけに彼の，ここへ来て本当によかったという気持ちがとてもよくわかる。彼の原生林での生活を細かく記したこの文章から，今にでも破裂しそうな感激が伝わってくるような思いがする。だからぼくも，ほんの少しの苦難ぐらいでめげないで，彼と肩を並べて歩けるぐらいの人間になりたい。

モルグ街の殺人事件

1M　加藤　久也

彼の能力は，なんと驚くべきものなのでしょう。ある人のちょっとしたしぐさ，今までのその人に関するできごと，それらの一つ一つを，鋭い観察力や推理力によって整理し，組み立てて，その人の今考えていることを，見抜いてしまうなんて。でも彼にとってそのことはしごく当り前のことで，理由を聞けば，私にも理解できそうな感じもしますが，やはり無理でしょう。人の考えていることを見抜くなんて超能力者みたいですが，とにかく彼は大したもので，非凡な人と言うべきでしょう。

事件が発生して，彼がその事件に興味を持ち始めると，その能力はフルに回転して，私達には直感力としか思えないような働きをするのです。しかし，いくらなんでも直感力だけで事件が解決するはずはないでしょう。それにはちゃんとした裏付けがあるはずで，事実，彼は綿密な観察や聞きこみ，その他いろいろなことを，彼特有の考え方のもとに立って行い，その成果を上げていますが，それはやっぱり凄いもので，普通の人にはできないことだと思います。

そんな彼にも不思議といえば不思議なことがあります。彼は事件を一種の謎解きのように考えているように私には思えます。だから，いえ，だからというのはおかしいかもしれませんが，それだからこそ，殺人事件のときなども，死体のむごたらしいことなどのことにも気を取られず，冷静に物事を見極めることができるのでしょう。けれども，人はそんなに冷静になれるものでしょうか。多分彼は変わった性格の持ち主なのでしょう。それを説明するにはとてもよい例があります。それは，彼は夜そのもののために，夜を愛するのです。なんとも不思議なことではありませんか。べつに人の好みに文句を言うつもりはありませんが，彼の場合はまったく納得がいきません。

夜が好きというのは別に構わないのですが，昼間でも家中の鎧扉という鎧扉は，すべて閉じてしまい，かわりに蝋燭をともすなんて通常の人間ならやるはずもないし，考えもしないでしょう。こんなことをしていたら世間の人に変人扱いをされるでしょう。やはり「天才と気違いは紙一重」というところなのだろうと多少私は思います。

だからといって私は人間というものは平凡の方がよいといっているのではありません。人間だれにも，これだけは人に絶対負けないような才能があっていいと思いますし，そうでなければ，その人は人生に何の生き甲斐も無くなってしまうかもしれません。これは少し大げさだったかもしれませんが，とにかく人はそういう才能があって然る可きだと思うし，また，彼，つまりデュパンのようにそういう才能のある人は，その人がどのような才能であろうと，尊敬に値する人だと思います。

ジュリアス・シーザー

1C　矢内　友則

私がこの本を選択した理由として，次の二つを掲げることができる。まず一つは，国語の教科書に掲載されていることである。入学当初，何気なく開いた教科書の一部分として，『ジュリアス＝シーザー』という題名の作品があったことを思い出したのだ。以前に読んだ教科書の文章だけでは物足りず，夏休みという絶

好のチャンスに，一冊，全て読んでみようと思ったからだ。二つめとして，作品中にも出てくる，「ブルータス，お前もか？」という台詞はあまりにも有名で，この本を読むまで，どんな作品に掲載されているかもわからなかった私でさえも耳にしていたからだ。
この二つが私の興味をより大きくそそる結果となった。それからというもの，私は食い入るように本を読み続けた。

ここで，一つの質問をしてみます。「皆さん，この作品における主人公は誰れでしょうか？」こんな質問を受けた場合，この本を読んだことのない人は誰れもが，「シーザー」と答えることであろう。題名からしても適当な推測といえよう。私も，てっきり主人公はシーザーだと考えていた。ところが，当のシーザーは，作品の半ばほどで，ブルータスの刃にかかって死んでしまうのだ。主人公のいない全く奇妙な作品だなぁ，と思ったものである。作品のすべてを通して出ているブルータスをなぜ主人公にしないのか。こんな疑問が生じた。

この疑問を解くべく，再び読書に挑戦した。今度は時間をかけ，文章の一節一節までかみしめるように読み返した。その結果考えられることは，ブルータスの精神の奥には，恐怖の対象としてのシーザーが存在しているのだ。だからこそ，ブルータスの一挙一動は，シーザーを意識していたのだ。以上の点で，シーザーこそが真の主人公として正解といえよう。これが私の導き出した結論である。

また，作品中のシーザー暗殺に対して，その行動を善と主張するブルータスの演説と，ブルータスの人格を高潔だと言いながらも，彼の行動を悪と主張し，市民の心を次第に自分のものとするアントニーの演説。どちらも市民の心理を十二分に利用したその両者，その才能，素晴しいの一言に尽きる。私も彼らの爪のあかでもせんじて，少しでもそんな才能を身につけたいものだ。また，これらの台詞から，シェークスピアが非凡な才能の持ち主であったことがうかがえる。シェークスピアの非凡な才能が示されている部分は他にも多々見うけられる。ブルータスとキャシアスとの対照的性格の交渉もまたそうである。名分主義・現実よりも原理に生きるブルータス，それに対して典型的現実主義者のキャシアス。絶賛すべき描写である。なぜ，これほどまで対象的な二人が，これほどまでうまくいくのか不思議である。それぞれの個性を遺憾なく発揮させながら話を進める技術はまさに巧みである。各人の生き方それぞれが野望をもち，それを満足させるべく全力を尽す。善し悪しは別として，そんな生き方が羨しく思える。

私の当面の野望は，いや，そんなに大げさではなく，当面の目標は，勉学とクラブ活動との両立である。前期末テストによって私に対する初めての評価が出る。何よりも，まだ拓かれぬ自分の将来のために，これからの努力次第でいかにでも広がる大空のような未来へ，そのために，これから一か月余り勉学に全力を傾けたい。スポーツに関しても。目標が決まった以上は全力を尽くすつもりだ。

最後に一度でいいから舞台劇『ジュリアス＝シーザー』を拝見したいものだ。

マノン・レスコー

1C　大橋　靖

この物語は，グリューという意志薄弱な青年の情熱的な恋の物語です。

グリューが十七歳のときに，修道院におくられてきたマノンと出会う。一目ぼれした彼は，彼女とパリへ逃げる。しかし，金がなくなったとたん，彼はうらぎられて父のもとへ帰される。友のチベルジュと父のおかげで彼女のことを忘れかけて，勉学にぼっとうし，僧になり，パリへ行ったときマノンと再会してしまう。再び彼はマノンと共に生活し始める。しかし今度はマノンの兄も一緒に住むことになり，又，金が足りなくなる。そこへ　運悪くも家が焼けてしまう。金がないと又，マノンにうらぎられるのは目に見えていた。そんな折，マノンの兄の紹介でいかさま賭博を始める。お人よしからどんどん金をまきあげてゆくグリュー。マノンの為に……。
「どうだい，こんな美しい理由があったらどんな過失だって正しいと思わないかい。」
と，いうセリフまではくグリュー。その後も彼は，人を二人殺すことまでする。もっとも一人は生きていたことがわかるが。もちろんすべてマノンの為である。そして最後は，司政官の甥サンヌレにむりやりマノンを取られ，のりこんで行って決闘し，殺してしまう。あわてた彼とマノンは二人で砂漠を逃亡，疲労困憊したマノンは死んだ。彼もそこでそのまま死のうとしたが，救けられてしまう。さらに，サンヌレは生きていたのだった……。

こんな，哀しい恋の物語がマノン・レスコーです。グリューは何度もマノンにうらぎられます。そのたびにマノンを憎み，けなしまくるのですが，マノンを前にすると再び彼女との愛に身を焦がすのです。僕は読んでいてグリューの優柔不断さにあきれかえり，腹をたてるのですが，いざ自分が彼と同じ立場に立ったらこれほどまでに人を好きになったら，はたして僕はマノンをはりたおして憎しみの言葉をあびせることができるでしょうか。恋は人を盲目にする，という言葉もあります。さらにマノンはグリューを本気で愛していたのです。何回ものうらぎりは，お金の為に金持ち達を色じかけでだまし，金をまきあげていたにすぎないのです。マノンは，快楽と遊戯が大好きで，遊び事があれば，彼女はお金などいらないのです。そしてグリューと会うたびに愛を誓いあうのです。その上，彼女は，大変な美人なのです。グリューでなくとも，そんな女を愛したなら，何をするかわかったもんじゃないのです。男ならば，心から真実に愛した女のために生命をなげうつこともいとわないのではないでしょうか。

何度も何度も愛する人のために愚かな罪を重ねてゆくグリューにじれったさを感じながらも，僕もこんな情熱的な恋愛をしてみたいと思いました。

武器よさらば

1E　村上　新一

「武器よさらば」は，第一次大戦におけるイタリア戦線を背景に，戦場にめばえた恋愛を描いた作品である。アメリカ出身の中尉フレデリックは，戦場で戦うちに，戦争で婚約者を失った篤志看護婦キャザリンを知る。

たわむれに始まった恋だが，彼が負傷して病院で再会したことから発展する。彼は，傷がほぼ完治すると，再び前線へ戻ったが，戦線が敵に突破されたため，退却の命令がくだされた。やがて，フレデリックヘンリーは軍隊を脱走し，キャザリンに会いにミラノへ向かった。国内にいては，見つかったら銃殺という運命にあった彼は，キャザリンとともに，イタリアを脱出し，本当の幸福，恋愛を求めてスイスに向かった。そこでは戦争は全く別世界のものとなり，二人には，地上の天国にも似た日々が訪れた。しかし，その幸福はつかのまのものにすぎなかった。彼は最愛の人を失ってしまうのである。これが，この小説のあらすじである。

私は，この二人の運命のはかなさというものに強く心を打たれた。最終章を読んでいると，キャサリンがもだえ苦しんでいる様子，死を予期しながらも，彼女の最愛の夫ヘンリーと離れるつらさ，悲しさといったような，言葉では，そのすべてを表現できない感情のために，必死になって死に抵抗している様子，彼女が死なないようにと一心になって祈っているヘンリーの様子，彼女を必死に看病しているヘンリーの様子，彼女を励まし，勇気づけているヘンリーの様子などが，私の胸にひしひしと伝わってくる。この二人の胸の内はどんなだったろう。おそらく，二人で暮らしたい，離れたくない，死にたくない，死なせたくないといった感情で胸がいっぱいだったろう。おもわず目頭が熱くなってくるのを感じた。そして，悲しみが絶頂に達すると，ついに，ヘンリーは泣き出してしまうのである。いままで，こらえにこらえてきた感情が爆発したのである。むりもないと思う。最愛の人がこの世を去っていくのを目の前にして，泣き出さずにいる人間などいるものか。もし，私が彼の立場だったら，気が変になってしまうだろう。泣き尽くすだろう。泣いてもしかたがないとわかっていても，やはり泣くことしかできないだろう。それから彼は，病院をあとに雨の中をホテル（キャザリンが入院する前，二人で暮らしていた所）へもどったのである。その時の彼の心境はどうだったろう。生きる望みを失ったような感じを抱いただろう。悲しみを通り越して，気が変になりそうだったろう。彼の家路への足どりは，どんなに重かったろう。しかし，ヘンリーとキャザリンの愛は，永遠に不滅だ。私は，ヘンリーとキャザリンが，幸福に暮らしているのを頭に浮かべた。そして，私は，それをいつまでも暖かく見守ってやろう。私の心の中では，ヘンリーとキャザリンは，永遠に幸福なのである。

解説を読んでみると，ヘミングウェイは，この最終章を実に十七回も書き直したということである。
なるほど，ヘンリーとキャザリンの様子や感情，ヘンリーとキャザリンに互いに通い合う感情が，ひしひしと私の胸に伝わってくるわけだ。しかし，ヘミングウェイは，なぜ，キャザリンを死なせたのだろうか。
戦争というものは，すべての幸福を奪ってしまう，悲惨で苛酷なものであるということを強調して，読者に戦争というものの恐ろしさを理解させようとしたのだろうか。私には，よくわからないが，しかし，戦争という暗闇の中の一点の明りぐらいは，見逃してくれてもいいと思う。幸福というその一点の明りが，やがて

希望へとつながるのだから。どんなにささやかな幸福でも，必ず希望へとつながるのだから。そして，幸福は，暗闇を宇宙の果てに追い出し，明るい幸福の光を，地球上のあらゆる所に放射するものである。

ギリシャ神話の世界

1E　志賀　幸恵

手もとに星座の本がある。晴れた夜，これを手にして空を仰ぎ，神話の世界を想像することが好きだ。それで，このギリシャ神話の感想を書いてみようと思う。

星座にまつわる神話には，恋愛がらみのものが多い。その主人公は，何といっても大神ゼウスであろう。彼は，言うなれば光源氏のような人物で，たくさんの恋人を持っている。

夏の夜空の見事な十字架，白鳥座。ゼウスがレダという恋人に会いに行った時の姿だ。
いくらゼウスが白鳥に変身したからとはいえ，レダが卵を生むとは。そしてその卵から，双子の英雄と美女がかえるとは。なんともはやユニークだと思う。鳥と人間をごっちゃにしているところが，おもしろい。
それでも，恋人が白鳥だなんて，バレエ「白鳥の湖」のようで，ロマンチックでもある。

ところで，何故わざわざ変身してデートに出かけるのか，これが実は，妻である女神ヘーラの目から逃れるためなのだ。ヘーラはねたみ深いので，バレたりしては大変なのである。でも，夫の浮気を知って穏やかでいられる女性は，そういまい。しかしゼウスは大神なのだ。神々の中でも一番権力があるのだ。
それにもかかわらずのかかあ天下。亭主関白のようでそうではないところが，俗っぽいとでも言おうか。現代の一部の夫婦とかわらないところが，非常におもしろいと思う。

それから，ゼウスは白牛にも変身したことがある。フェニキアの王女エウロパをさらった時のことだ。そして上陸したのが，現在のヨーロッパだったのである。王女の名が，地名の由来だというわけだ。いわれのようなものに続くところは，世界中の神話，伝説に共通のおもしろさだろう。そんなことを考えると，今まで何となく見聞きしていた地名も，興味深く思えてくる。そして，私の興味を呼びおこしたこの白牛は，すばるで有名なおうし座となって，冬の夜空に輝いている。

ギリシャ神話には，ゼウスの他にもたくさんの神々が出てくる。そしてそれぞれに，恋や冒険や，戦いがからんだ神話がある。それが星たちにまつわって，ひとつひとつの星座になった。（神話のない近代星座も幾つかあるが）だから，ギリシャ神話の世界には，甘い音色と神秘の香りが満ちている。神々の姿，精霊や女神，神に愛された美少年たちをのせて，キラキラと輝きながら流れる大河。それがギリシャ神話だと，私は思う。そう，それはちょうど，銀河の流れであるように感じる。

もうすぐ秋。空気が美しく澄んでくる。神話の世界に浸りながら，また夜空をながめてみよう。

アルト・ハイデルベルグ

1E　木幡　勝徳

この小説，『アルト・ハイデルベルグ』を読んで感じた事，考えさせられた事がいろいろある。
まず，なんと言っても，場面設定がおもしろい。一国の公子が，学園都市ハイデルベルグへ来て，一つ一つ今まで一度も体験したことがなかったことをして，少しずつ一人の人間として目覚めていくと言うのだから。

彼は，長い間，陰気な城に閉じこめられていた。
その間彼はずっと，人間らしいことはほとんどしなかった。早い話が，彼は死んでいたのと同じだったのではないだろうか。ハイデルベルグへ行くことになって新しい生活に一歩踏み出た時，彼はとまどったことだろう。
ところで，もし自分が彼だったら，城の中の生活には耐えられなかっただろうと思う。新しい生活に入って彼は色々なことを知った。学生生活の楽しさ，苦しみ，そして大きな愛情。その中でもとりわけ友情と，愛。

彼は，三月という短い間に，一生の支えとなる思い出を作った。
これらの事は，きっと彼の心の底深く根をおろして，勇気を起こさせたことだろう。

人はだれでも，このような思い出の一つや二つを持っているのではないだろうか。くじけそうになった時など，こんな事ぐらいなんだ，あの頃のほうがまだ大変だった。てな具合に元気をつけてくれるだろう。

また，それらは一生の思い出として，人をなぐさめてくれるはずだ。

話は彼にもどるが，その短い日々の後，彼はそのすべての楽しい日々に終止符を打つことになる。おそらく彼は，そんなことになるなんて思ってもみなかっただろう。第一，彼は，その日々がずっと続くと思っていたのだから。彼はきっと深い失望に落ちたことだろう。

それから二年，彼は，なつかしい人達に，永遠の別れをすることになる。もう，二度と会えない人々。彼はとてもつらかっただろうと思う。

ところで，この小説は自分達に，とても大きなことを教えようとしているのではないだろうか。それは，人にあたえられた時間は，無限ではないという事だ。自分はもちろん，他の人も同じだと思うが，自分はいつまでも変わらないと思っている。しかし，老いた人達はよく，あっという間にここまで来てしまったと言う。そしてそれが後悔することばかりだったと。自分は有意義に過ごしてきて満足だったと言える人が，いったい何人いるだろうか。おそらく，ほとんどいないだろう。自分も，もちろん後悔することが多い。

だからこそ，この一時を大事にしなければならないのだ。ただ一日何もしないでだらだらと過ごしてしまう。これは絶対にいけないと思う。だから人間は，やろうと思ったことは，必ずやらなければいけないと思う。

この小説は，自分に大きな事を教えてくれた。

お気に召すまま

秀れた本，必要な本を広い視野から求め，備え付けるのが図書館のつとめですが，それとともに学生諸君が，そのときどきに，読んでみたい，と望む本も，できるだけ提供しよう，と思っています。

図書館と諸君とをつなぐ太い綱として，各学級の図書委員の人々の他に，閲覧室受付に備えてある **購入希望箱** を活用してください。

ここに，最近3か月ぐらいの間に書名を投入された，次の物を備えることにしました。現物は次々と入ってくることになります。

今後も，**高専生が読むに堪える本**を，どしどし希望してください。　（館長）

武満　徹	「音楽の余白から」	新潮社
青島幸男	「人間万事塞翁が丙午」	〃
五木寛之	「青春の門　第4部 上・下」	講談社
井上ひさし	「吉里吉里人」	新潮社
	「ことば四十八手」	〃
	「私家版　日本語文法」	〃
黒柳徹子	「窓ぎわのトットちゃん」	講談社
筒井康隆	「虚人たち」	中央公論社
水上　勉	「男色」	新潮社
吉行理恵	「小さな貴婦人」	〃
L・コーニング	「白い家の少女」	〃

友だちにも読ませたい本

第二回　3年生

（注）　○印は専門学科関係。　書名の後の●印は再出のもの。

勧める人	書名	著者	発行所	理由・その他
【機械工学科】				
我妻慶隆	砂の器	松本　清張	新潮社	刑事の苦心
	時刻表ひとり旅	宮脇　俊三	講談社	興味ある人へ
	○機械学演習	稲田・森田	学献社	説明親切
栗林哲也	ラジオが泣いた夜	片岡　義男	角川書店	感性が鋭くなる
	コーヒーもう一杯	〃	〃	自分のスタイルを変えさせる
佐藤武明	点と線	松本　清張		
佐久間　洋	ブルーバックス（各種）		講談社	おもしろい
	日本昔話集　1．2．3．		新潮文庫	読みやすい
佐藤浩司	青年の樹	石原慎太郎	角川文庫	とにかくためになる
	アラスカ物語	新田　次郎	〃	
	科学千夜一夜			
	○鉄のメルヘン	中沢　護人	アグネ社	先生にもすすめられた
鈴木国雄	○自動車工学　1．2．3．	関　敏郎	コロナ社	
鈴木健吾	花埋み	渡辺　淳一	新潮文庫	
	こころ	夏目　漱石		
	○鉄のメルヘン			
	城の中の人	星　新一		
高田俊之	汚れた英雄	大藪　春彦	角川文庫	自分の生き方がくだらなくなる
高橋孝夫	ベクトル解析	矢野・石原	裳華房	
	有機化学の基礎	後藤俊夫(訳)	東京化学同人	
	○特殊鋼の熱処理	飯島　一昭	日本熱処理技術協会	
高橋哲也	風神の門	司馬遼太郎	新潮社	
	光る海	石坂洋次郎	〃	
	青年の樹●			
	青春の門	富島　健夫	角川文庫	
	○セラミックスの科学	ヴェ・ヤノフスキー	東京図書	
武田信二	○100万人の金属学			
豊島久則	山本五十六　上・下	阿川　弘之	新潮文庫	おもしろい
	撃沈	豊田　譲		すごい
野尻一則	低空飛行	丸谷　才一	新潮文庫	エッセイの楽しさ
	マノン・レスコー	アベ・プレヴォー	〃	マノンの心の変化が
橋本　薫	結婚します	山口　瞳	新潮社	
蛭田勝久	ユーモア小説集	遠藤　周作	〃	社会を上手にひねくってる
松田　満	友情	武者小路実篤	岩波文庫	
三浦善明	赤と黒	スタンダール	〃	

勧める人	書名	著者	発行所	理由・その他
馬上匡央	窓ぎわのトットちゃん	黒柳 徹子		実におもしろい
	ぼくって何？			学生生活の意義
吉田淳也	氷壁	井上 靖	新潮文庫	今，読んでる
【電気工学科】				
金田昌也	ドキュメント 日産自動車の決断	梶原 一明	ブレジデント社	自動車会社がどういうものか
	日産自動車の時代	立辺 純太	オーエス出版社	
	比較日本の会社・自動車	梶原 一明	実務教育出版	
小林 茂	家族八景	筒井 康隆	新潮文庫	人の心を読める少女の活躍
	こころ ●			
	古都	川端 康成	新潮文庫	修学旅行へ行く人へ
宍戸 博	天然記念物の動物たち	畑 正憲	角川文庫	
	夏への扉	RAハインライン	早川文庫	SFの驚きの感覚
松浦登美雄	そしてだれもいなくなった	A クリスティ	〃	推理小説のおもしろさ
	幻魔大戦	平井 和正	角川文庫	おもしろいだけのSFでない
	蟹工船	小林多喜二	新潮文庫	とにかく読むべし
	吾輩は猫である	夏目 漱石	旺文社文庫	人間への痛烈な風刺
	○だれにもわかるトランジスタ読本	工藤 利夫	オーム社	わかりやすい
	なぜベストをつくさないのか	ジミーカーター	英潮社	とても考えさせられる
	いびつな日本人	栗栖 弘臣	二見書房	すごく考えさせられた
	青年の思想 愛すること	加藤 諦三	大和出版	理論にしばられる前に
	○だれにもわかるトランジスタ読本			
【工業化学科】				
青木慎一	○日本の化学工業	渡辺・林	岩波新書	
青木英敏	細雪	川端 康成	新潮文庫	
	悪霊島	横溝 正史	角川文庫	
	○日本的技術の模索		アグネ	世界の技術のうつりかわり
赤川卓央	パスカルの鼻は長かった	小峰 元	講談社文庫	楽しみながら勉強
	親不孝のすゝめ	〃	〃	青春とは
	○日本の化学工業 ●			自分の将来を見つめる
	○死の灰と闘う科学者	三宅 泰雄	岩波新書	〃
秋山幸示	車の色は空の色	あまた きみこ	？	楽しい幼児の思い出
	太陽にほえろ		？	
	○化学ぎらいをなくす本		？	すきになっちゃう
	○日本の化学工業 ●			
石川久美	こころ ●			分りやすい
	○化学に未来はあるか		共立出版	勉強になった
小形英之	愛と死	武者小路実篤	新潮文庫	
	水俣病		？	
	○アシモフ選集 炭素の世界	アシモフ	？	
小野彰一	○工業化学 今日・明日		？	
木村順子	友情	武者小路実篤	新潮文庫	

勧める人	書名	著者	発行所	理由・その他
	花埋み ●			
	○化学系の進路と就職	頼　正道	三共出版	就職の実態
鯨岡信之	夢魔の標的		?	
	陽のあたる坂道	石坂洋次郎	新潮文庫	
	霧の朝	森　有正	?	
	○化学に未来はあるか		?	
佐久間広光	なりあがり	矢沢　永吉	?	ためになる
	○日本の化学工業 ●			将来のために
高木　仁	○化学系の進路と就職			
高橋謙一	○基礎有機化学	LF & M フィーザー	丸善	ためになる
	○工業化学概論	尾藤・山田	朝倉書房	ためになった
玉川雅代	罪と罰	ドストエフスキー	新潮文庫	頭が痛くなりたい人に
	谷山浩子童話館	谷山　浩子		メルヘンです
	化学業界		?	グラフ・表が多い
新妻弥江	しあわせづくり	桃井かおり	角川文庫	何度読んでもあきない
	醜女の日記	シャルル・プリニエ	新潮社	考えさせられた
	自己の心理学	水島　恵一	社会思想社	自己の再認識
	アダムとイヴの日記	マークトウェイン	旺文社文庫	発想がおもしろい
	○現代化学工業　現状と将来への展望	今井寅三郎他	三共出版	
	○ケミカルエンジニア　その仕事と生活	化学工業協会	東京化学同人	
平木恒男	新しい科学史の見方		?	科学史の事実
本田裕二	○日本の化学工業 ●			なかなかよい
増子健二	COSMOS	カールセイガン	?	
	科学の壁を破った人たち	アイザックアシモフ	共立出版	おもしろい
	○エントロピー		講談社	
目黒千麻子	人・犬に会う	K・ローレンツ	?	
	いたずらの天才	A・スミス	文春文庫	おもしろい
	ムツゴローシリーズ	畑　正憲	〃	読みやすい
山頭辺　勉	カード式石村式速記入門	石村　善左	評論社	就職に有利
	早稲田式速記入門	坂巻		学業向上
山本幸仁	三国志		教養文庫	
	もう笑わなくちゃ	財津　和夫	?	
	○化学ぎらいをなくす本 ●			
	○触媒とは何か		?	
吉田達也	○日本の化学工業 ●			
渡部　豊	真実一路	山本　有三	新潮文庫	
	破戒	島崎　藤村	〃	
	○高分子の科学	野口　達弥	講談社	
	○触媒とは何か	宮原・田中	〃	
【土木工学科】				
我妻康弘	青春の門	五木　寛之	講談社	おもしろい
	思索への34階梯　上・下	ヴァンシューデル	公論社	ためになる

勧める人	書名	著者	発行所	理由・その他
阿部修司	○土木工学ハンドブック	土木学会	土木学会	
猪狩充弘	人間失格	太宰治	新潮文庫	趣きがある
	ケース D	糸川英夫	角川文庫	〃
	技術者の夢	猪狩寧雄	森北出版	ためになる
	○土木学会誌		土木学会	〃
今井賢一	日本沈没	小松左京	光文社	おもしろい
	スエズ運河	酒井伝六	新潮文庫	ためになる
植野光教	○土木学会誌 ●			とてもためになる
大川原保美	氷点	三浦綾子	角川文庫	おもしろい
大和田衛	○土木工学ハンドブック ●			
片寄正英	○土木工学ハンドブック ●			必読書
神谷光昭	塩狩峠	三浦綾子	新潮文庫	立派な生き方
	帰郷	大仏次郎	〃	戦後混乱期の社会批判
	古都 ●			2年生に
小泉茂法	○土木工学ハンドブック ●			
小林俊信	○土木工学ハンドブック ●			よくわかる
佐藤博行	○土木学会誌 ●			すばらしい
佐藤不二夫	人を見抜く	松本順	PHP研究所	ためになる
	相対性理論の世界	JAコールマン	講談社	おもしろい
鳴原茂	蒼い時	山口百恵	集英社	感動する
宍戸勤	絵のない絵本	アンデルセン	新潮文庫	
	最終夜行寝台	片岡義男	角川文庫	
	○測量士補試験必携		法学書院	
柴薮聡	花埋み ●			
	天然記念物の動物たち ●			
	福翁自伝	福沢諭吉	岩波文庫	
	出家とその弟子	倉田百三	新潮文庫	
清水幸三	○地図の楽しみ	堀淳一	河出書房新社	楽しい
高木正文	海と毒薬	遠藤周作	新潮文庫	
	○土木学会誌 ●			
田中寿明	風立ちぬ・美しい村	堀辰雄	新潮文庫	感動した
	人生論ノート	三木清	〃	人生にためになる
広坂忠司	○土木学会誌 ●			
星清	○土木工学ハンドブック ●			ためになる
本多則雄	○土木工学ハンドブック ●			すべてわかる
緑川猛彦	こころ ●			
	さぶ	山本周五郎	新潮文庫	
	徳川家康	山岡荘八	講談社	
本村隆一	英語辞典		?	役立つ
	○土木工学ハンドブック ●			
遊佐浩之	悲しみの歌	遠藤周作	新潮文庫	いい本だ
	トニオ・クレーゲル	トーマス・マン	〃	おもしろそうだ
湯田博文	詳説 微分積分		培風館	必ず知るべきこと

勧める人	書　　名	著　者	発行所	理由・その他
渡辺　透	○土木工学ハンドブック ○ ○測量士補問題集 ○土木工学ハンドブック ○		理工図書	3回読めば上級職 自力でとるべし

◇附　言◇

前号4年生に続く調査，今回も学級図書委員に記入用紙の配布と回収を託した。9月14日，回収数はM－19，E－5，C－22，土－27，電気工学科の組が気になる。

道しるべ

〔去る7月と9月，全校集会の校長訓話にちなんで〕

1．5C　鈴木君の闘病記

鈴木孝雄 著「青春の樹」　八幡印刷㈱
A6判 243ページ　¥980

自分を主人公にした短編小説「春の嵐」から始まって「病床日記」「愛」など五章構成。この中には自分を冷静に見つめた詩や，新聞を読んだ感想「一流会社爆破事件について」のほか，肉親との触れ合いや，腎臓病で苦しんだ者でなければ分からない闘病のあせりやいらだち，不安などが伝わってくる。しかも決して後ろ向きの姿勢ではなく，あすを見つめた生命の息吹きが感じられる作品だ。　（7.23　いわき民報）

2．杉浦民平氏の猛烈な読書量のこと

一月・一万ページ

杉浦民平（019.W 私の読書法　岩波新書）

「じぶんひとりでいれば，わたしはすぐになまけ者になる。何もしないでぼやっとしているじぶんを見出す。その悲しむべき傾向とたたかうために，いつごろか，わたしはストア主義またリゴリズムを身につけるべく努めるようになった。……第一に，わたしは毎月一万ページ以上を読む義務をじぶんに課することにした。……その一万ページにはA6版の文庫からB5判の美術書にいたるまでのあらゆる大きさを含ませてあることもいっておく必要があろう。もっとも雑誌はこのページの中に入らない。……月末も近づくのに，あと四，五千ページも義務が残っている。――そういうときには，わたしは大衆小説を読みだすのだ。たとえば吉川英治の「宮本武蔵」は，戦後版で三千六百ページくらいあるが，二日あれば大丈夫読みおおすことができる。……わたしはだいたい四冊くらいの本を一時にかわるがわる読む癖をもっている。だからその四冊のうち二冊は自由に選択していいが，他の二冊はあらかじめ定められた順序に従わねばならぬことを自分に命じたというわけである。自由選択の二冊のうち，一冊は翻訳であり，他の一冊は日本文学でなくてはならぬ。……ついでにわたしの本を読む姿勢は，とてもお行儀いいということを広告しておかなくてはなるまい。便所と電車の中（そのためにわたしはいつでもポケットにビニールのカヴァをした岩波文庫一冊をもっている）をのぞけば，わたしは必ず机に向って読書する。（以下略）」

（筆者は 1913年生れ　東大文学部卒　評論家・作家，8年間 愛知県下の町会議員も）

3．科学者「寺田寅彦」という本

宇田道隆 著　　NHKブックス　¥650
918.68　寺田寅彦全集（全7巻）
寺田寅彦随筆集　岩波文庫（全5冊）

優れた科学者で豊かな随筆を書いた人には，他に雪の博士，故 中谷宇吉郎氏があるが，今手に入り易い本では，同氏著「科学の方法」岩波新書。なお，「中谷宇吉郎随筆選集1～3（朝日新聞社）を近く備え付ける予定。

夏休み × 図書館 × 学生 ＝ ？

I　帯出人員と冊数 ── 学年・学科別

学年	1		2		3		4		5		計	
学科	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊	人	冊
機械	19	34	7	14	13	24	8	18	7	14	54	104
電気	14	26	11	26	14	26	22	38	12	24	73	140
化学	23	39	7	11	3	8	17	31	13	27	63	116
土木	18	31	15	33	5	6	7	17	9	34	54	121
計	74	130	40	84	35	64	54	104	41	99	244	481

II　分類別冊数

分類＼学年	1	2	3	4	5	計	分類＼学年	1	2	3	4	5	計
総記	3	7	4	1	3	18	産業				1		1
哲学	43	1	1	10		55	芸術・体育		1	1			2
歴史・地理	7	1		3		11	語学		6			1	7
社会科学			2	12	1	15	文学	53	19	21	7	24	124
自然科学	10	15	11	25	13	74							
工学技術	14	34	24	45	57	174	計	130	84	64	104	99	481

III　学級別冊数

		在籍数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
1	M	41		5	4		1	6				18	34
	E	40	1	7	1		2					15	26
	C	40	1	16	1		4	1				16	39
	土	41	1	15	1		3	7				4	31
	計	162	3	43	7		10	14				53	130
2	M	40		1	1		5	2			3	2	14
	E	39	3				4	8		1	2	8	26
	C	40	1				2				1	7	11
	土	39	3				4	24				2	33
	計	158	7	1	1		15	34		1	6	19	84
3	M	40				1	4	9		1		9	24
	E	40	4	1			1	13				7	26
	C	36					5					3	8
	土	38				1	1	2				2	6
	計	154	4	1		2	11	24		1		21	64
4	M	43		3				12	1			2	18
	E	41	1			7	4	22				4	38
	C	34		6			19	5				1	31
	土	41		1	3	5	2	6					17
	計	159	1	10	3	12	25	45	1			7	104
5	M	37						10			1	3	14
	E	37	3				4	15				2	24
	C	42					9	16				2	27
	土	33				1		16				17	34
	計	149	3			1	13	57			1		99
総計		782	18	55	11	15	74	174	1	2	7	124	481

Ⅳ　8月中帯出人員と冊数

科＼年	1	2	3	4	5	計	科＼年	1	2	3	4	5	計
機　械	6	3				9	土　木		7		4	6	17
電　気	2	8	3	3	4	20							
化　学	3	8	2	18	8	39	計	11	26	5	25	18	85

Ⅴ　同上分類別人員

分＼年	1	2	3	4	5	計	分＼年	1	2	3	4	5	計
総　記		2				2	産　業						
哲　学	1			1		2	芸術・体育						
歴史・地理							語　学		2				2
社会科学			1	1		2	文　学	8	2		4		14
自然科学		17	2	14	8	41							
工学技術	2	3	2	5	10	22	計	11	26	5	25	18	85

◇ 附　言 ◇

夏休み直前の貸出し状況の三統計で利用度を概観すると，

1. 学年順 ――1年（130冊），4年・5年・2年・3年（64冊）
2. 学科順 ――E（140冊），土・C・M（104冊）
3. 学級順 ――1C（39冊），4E・1M・5土・2土をベスト5とし，全校最低は，3土（6冊），3C（8冊）。

学年で1年，分類で文学が多いのは，課題読書がその大因をなすのであろうし，また5年生に土木部門が多いのは，卒業研究との関連が大であると思われる。

関係職員の大奮発で今年度から試みた8月中の開館はその成果が懸念されたが，23日の間に，254人が入館し，平均1日に3.7冊が利用されたこととなる。本校の先輩で技科大生某君が通ってくる感心な姿もあった。

第27回読書感想文全国コンクール

高等学校の部　課題図書

① 春の道標　　黒井千次　　新潮社（備付け済み）

② 虹の翼　　吉村　昭　　文芸春秋

③ 地球はふるえる　　根本順吉　　筑摩書房

字数・用紙―― 400字詰原稿用紙　5枚以内

締　切 ―― 11月

※　応募してみたい人は，図書係へ聞き合わせてください。

＜主催＞　全国学校図書館協議会・毎日新聞社
＜後援＞　総理府・文部省

新着図書目録

◆印は図書館、他は各教官の研究室に所在するものを分類別受入順に記載

総　記

福島民報縮刷版　昭和56年1月～4月号　福島民報社◆
朝日新聞縮刷版　昭和56年2月～6月号　朝日新聞社◆
相馬野馬追史　第一法規出版◆
岡倉天心全集 8　平凡社◆
福沢諭吉選集 4.6～8　岩波書店◆
海外情報源ハンドブック　ジャパンタイムズ
世界大百科事典
　34　現代　平凡社
東洋文庫
　395　本朝食鑑　同◆
　396　田子夜話続篇　同◆
　397　西陽雜俎　同◆
　398　シーボルト最後の日本旅行　同◆
人類の知的遺産
　30　ベーコン　講談社◆
　38　ライプニック　同◆
　78　フランツ．ファノン　同◆
牧野登　紙碑、東京の中の会津　日本経済評論社◆
川瀬一馬
　続日本書誌学之研究　雄松堂書店
森本哲郎
　読書の旅　講談社◆

哲　学

　内村鑑三全集 4.7.9.10　岩波書店◆
　アウグスティヌス著作集 13　教文館
　ルソー全集 1.2　白水社◆
日本思想大系
　22　中世政治社会思想　下　岩波書店
ハイデッカー選集
　28　現象学と神学　理想社◆
仏教思想
　5　苦　平楽寺書店
堀一郎著作集
　4　道教思想と神社神道　未来社◆
日本哲学思想全集
　19　歴史論篇・社会篇　平凡社◆
　20　伝記資料・索引　同◆
牧野信也
　創造と終末　新泉社
井筒俊彦
　意味の構造　同
高橋亘　アウグスチヌス第十三世記の思想　創文社
近山金次
　アウグスチヌス歴史的世界　慶応通信
アリスターハーディ
　神の生物学　紀伊国屋書店
沢田允茂
　科学と存在論　思索社
今道友信
　中世の哲学者たち　同
趙紀彬　論語新探　大修館書店◆
飯島宗亨編
　キルゲゴールの講話遺稿集　新地書房◆
中村元　仏教語大辞典　東京書籍
講座道元
　Ⅱ　道元禅の歴史　朝日新版社◆
　Ⅲ　道元の著作　同◆
　Ⅳ　道元思想の特徴　同◆
　Ⅴ　世界思想と道元　同◆
　Ⅵ　仏教教学と道元　同◆
　Ⅶ　現代思想と道元　同◆

歴　史

　岡部三郎さんを偲んで　土木学会
　中世の窓から　朝日新聞社
陸離臣　中国歴史の旅　東方書店◆
R J ディボス
　生命科学への道　岩波書店
RWクラーク
　暗号の天才　新潮社◆
桜井正信編
　歴史紀見東京江戸今と昔　八坂書房◆
図説日本文化の歴史
　2　飛鳥、白鳳　小学館◆
　3　奈良　同◆
　4　平安　同◆
　5　鎌倉　同◆
　6　南北朝　室町　同◆
　7　安土桃山　同◆
　8　江戸　上　同◆
　9　江戸　中　同◆
　10　江戸　下　同◆
地図の風景
　広島・岡山　そしえて◆
　愛知・岐阜　同◆
　九州編 1　福岡・佐賀・長崎　同◆
日本の山河
　26　天と地の旅　静岡　国書刊行会◆
　28　長野　同◆
　29　山梨　同◆
　30　福井　同◆
日本歴史地名大系
　26　京都府の地名　平凡社◆
　30　奈良県の地名　同◆
明治文化史
　3　教育道徳　原書房◆
日本庶民生活史料集成
　23　年中行事　三一書房◆
角川日本地名大事典
　17　石川県　角川書店◆
日本歴史展望
　1　埋もれた邪馬台国の謎　旺文社◆
　2　万葉びとの夢と祈り　同◆
　3　平安京にうたう貴族の春　同◆
　4　鎌倉武士の御恩と奉公　同◆

社会科学

　新しい福祉指標NNW　大蔵省印刷局
　新経済社会7ケ年計画のための多部門計量モデル　同
　値段の明治大正昭和風俗史　朝日新聞社◆
　日立運動史　日立労働日立支部
伊藤正徳
　連合艦隊の最後・付・連合艦隊の栄光　光人社◆
小林孝裕
　海軍よもやま物語　同◆
　続　同　同◆
大矢真一
　日本経済学史の旅　恒和出版
吉田八年
　電女異聞考　新泉社
M&Rフリードマン
　選択・自由　日本経済新聞社
糸川英夫
　前例がないからやってみよう　光文社
日本犯罪学
　1　原因 1　東京大学出版会
　2　同　2　同
　3　対策 1　同
　4　同　2　同
　5　原因　1970～1977　同
　6　対策 2　1970～1977　同
日本教育論争史録
　1　近代編　上　第一法規
　2　同　下　同
　3　現代編　上　同
　4　同　下　同
現代地理教育講座
　3　地誌学習の基本問題　古今書院

自然科学

　高分子辞典　朝倉書店◆
　固定化酵素　講談社◆
　ライフサイエンスの基礎実験　同◆
　岩波理化学辞典　岩波書店
　微生物のつくる生理活性ペプチド　共立出版
　関数の概念　同◆
　化学辞典　森北出版◆
　人工衛星写真リモートセンシング　朝倉書店
　地下水ハンドブック　建設産業調査会
　雨量年表第27回　昭和54年　日本河川協会
　科学技術和英表現大辞典　Vol 2　小倉書店
　土壌微生物実験法　養賢堂
　微生物実験法　講談社
小林隆　線形計画法入門　産業図書
日野幹雄
　スペクトル解析　朝倉書店
赤池弘次
　ダイナミックシステムの統計的解析と制御　サイエンス社
E.J ハナン
　時系列解析　培風館
国沢清典
　エントロピーモデル　日科技連出版社
関根智明
　シミュレーション　同
笠原嘉他
　Lecture Books 繰われるのが怖い　朝日出版社◆
野村昭一郎
　量子力学入門　コロナ社
不破敬一郎
　生体と重金属　講談社
宮野成二
　系統的にみた医学生物学領域の英語術語

辞典　広川書店
リモートセンシングノート　技報堂出版
山藤一雄
生命化学　内田老鶴圃新社◆
矢島祐利
一科学史家の回想　恒和出版
T.ハワード
遺伝工学の時代　岩波書店
J.グットフィールド
神を演ずる　同
平田寛　ガリレオの娘子　恒和出版
錬金術の誕生　同
市村彦　統計力学　裳華房
梅林宏道
抵抗の科学技術　技術と人間
高松吉郎
微分幾何　裳華房
三村護　線型代数演習と解法　現代数学社
微分積分演習と解法　同
E.L.リース
リースのやさしい微分方程式　同
笠原皓司
対話微分積分学　同
ポントリヤーギン
やさしい微積分　東京図書◆
道脇義正
工科のための微積分入門　同　◆
工科のための演習微積分　同　◆
マグナス、J.ウエニンガ
多面体の模型　教育出版◆
大倉清美
魔方陣　富山房◆
加納敏　数の遊び魔方陣図型陣の作り方　同　◆
エドウイン・モイーズ
数体系入門　日新出版◆
所一夫　数理統計概要　槙書店◆
島内剛一
ルービックキューブ免許皆伝　日本評論社◆
ラストリーギン
偶然　偶然　偶然　東京図書◆
鈴木継美
重金属中毒　医歯薬出版
日本化学会編
錯体化学からみた生体系とそのモデル
学会出版センター
化学生態学の展望　同
久保明良
がん化学療法の実際　南江堂
田部浩三
金属酸化物と複合酸化物　講談社
現代天文学講座
9　銀河と宇宙　恒星社厚生閣
14　天文計算センター　同
岩波講座
24　基礎数学　岩波書店
微生物の生態
1　方法論をめぐって　学会センター
2　相互作用をめぐって　同
3　増殖をめぐって　同
4　場の管理をめぐって　同
5　環境汚染をめぐって　同
6　固体群の変動機構をめぐって　同
7　技術論をめぐって（識別）　同
8　極限環境の微生物　同
自然地理学講座
3　水文学　大明堂
ブルーバックス
418　実践的樹木検索小図鑑　2夏　講談社◆
419　同　3秋　冬　同　◆
420　対称性原理　同　◆
428　数量生物学のすすめ　同　◆
445　数学感覚をやしなう　同　◆
446　新しい気象学入門　同　◆
455　現代数学の考え方　同　◆
456　海流の物理　同　◆
457　生物質問箱　同　◆
458　双子のパラドックス　同　◆
459　パノラマ太陽系　同　◆
460　インターフェロンとは何か　同　◆
462　化学なんでも相談室　同　◆
Kenneth Schug
英語論文の書き方　丸善
化学の領域増刊106号　水の構造と物性
ルネデュボス　南江堂
人間と適応　みすず書房
島田英夫
塩と生物　新元社◆
福井三郎
生物有機化学　講談社◆
岩田久敬
食品化学　総論　各論　養賢堂◆
吉田美穂子
要説栄養生化学　三共出版◆
安田斉　花の色の謎　東海大学出版会◆
安田孟二郎
植物成分の生合成　東京化学同人◆
E.J.ヒュイット
植物の無機栄養　理工学社◆
田口晃平
植物生理学大要　養賢堂◆
W.スタイルズ
植物生理学入門　上　下　東京大学出版会◆
Fundamentals of Numerical Computation　Springer－Verlag
B.L.Vander Waerden
Einführung in din algebraische Geometrie　同
Modern Scientists and Engineers 1～3　MCGraw－Hill
Connections Curvature and Cohomology 1.3　Acodemic Press
Grace Orzech
Plane Algebraic Curves Dekker
Scientific Papersof Tomonaga 1.2
みすず書房
Osamu Hayashi
Biochemical and Medical Aspects of Active Oxygen　学会出版センター

工学・技術

昭和58年度版建設要覧　建設工業調査会
昭和56年度電子通信学会総合全国大会講演論文集　電子通信学会
昭和56年電気学会全国大会講演論文集
電気学会
有限要素法による弾性解析プログラミング
培風館
コンクリート構造の限界状態設計法試案
土木学会
最適化手法の構造設計解析への応用
培風館
道路橋設計便覧　日本道路協会
道路標示方書　同解説　同
流量年表　第32回　昭和54年
日本河川協会
雨量年表　第27回　昭和54年　同
衝撃と破壊調査研究分科会　日本機械学会
第20回シンポジウム材料および構造物の破壊と強度評価　同
JISハンドブック製図　1981
日本規格協会
同　安全　同
同　機械要素　同
同　鉄鋼
多段トランジスタ回路　産業図書
基礎トランジスタ回路　同
トランジスタの物理と回路モデル　同
自動作画の基礎技術　土木学会
橋Bridges in Japan 1979～1980　同
第15.16衛生工学研究討論会講演論文集
同
J.Tオーデン
非線形連続体の有限要素法 2　培風館
遠藤浩三
地下鉄建設ハンドブック　山海堂
鎌田栄基
食品の色　光琳◆
J.Tコーナ
流体解析への有限要素法の応用
サイエンス社
西山静男
音響振動工学　コロナ社
近藤次郎
数学モデル　丸善
宇田新太郎
レーダ工学演習　学献社
斎藤清一編
スーパーキャピテーション　産報出版
高橋進一
線形システム解析の基礎　実教出版
安居院猛
コンピュータ音声処理　産報出版
木原信敏
ビデオレコーディング技術　同
星谷勝　構造力学演習　森北出版会
山田嘉昭
有限要素法による弾性解析プログラミング
培風館
坂本正文
コンピュータ構造力学演習　理工図書
平野喜三郎
構造力学演習　上巻　現代工学社
岩熊敏昭
同　下巻　同
戸川隼人
有限要素法のガイド　サイエンス社
菊池文雄
有限要素法の概説　同
R.Tフェナー
有限要素法の実際　同
海外研究開発レポート
水理学における確率的手法の利用研究
J.T.R.A
金綱均　太陽熱温水器製作ガイドブック　パワー社
アレン・アンドルーズ
空飛ぶ機械に賭けた男たち　草思社
信澤寅男
エネルギー工学のためのエクセルギー入門
オーム社

西亀達夫
新鉄道工学　森北出版
土木学会編
土木計画における予測と計量化
技報堂出版
富塚清編
機械工学通論　森北出版
山田嘉昭
マトリックス法材料力学　培風館
塑性・粘弾性　同
菅井久一郎
エネルギー原理入門　同
C.A. ブレビア
境界要素法入門　同
A.P. ルジャニーツイン
構造物の信頼性解析　丸善
土質工学会編
岩の工学的性質と設計施工への応用
土質工学会
Robert D.Cook
有限要素法の基礎　科学技術出版社
尾上守夫
アコースティック、エミッションの基礎と応用　コロナ社
V.V. ボロチン
構造設計の確率論的方法と信頼性問題
培風館
藤三二　熱伝達の基礎と演習　東海大学出版会
小林恵明
新版環境計量士　公害対策技術同友会
D.J. シューリング
構造実験の理論と応用　技報堂出版
早坂寿雄
電気音響学　岩波書店
伊藤伍郎
改訂腐食科学の防止技術　コロナ社
S.P. ティモシェンコ
材料力学史　鹿島出版会
脇田嘉夫
よくわかる構造力学の整理と演習　学隆社
S.T.Timoshenko
材料力学本論　コロナ社
原口昌　測量士試験要点例解　税務経理協会
吉田博　構造力学演習・不静定編　森北出版

岡地栄　機械英語便覧　日刊工業新聞社
A.M. Neville
ネビルのコンクリートの特性　技報堂出版
尾坂芳夫
コンクリートの品質管理入門　彰国社
星埜和　交通工学総論　技術書院
G. グーデフス
地盤力学の有限要素解析 1　森北出版
吉田信一
道路土工の測量設計　山海堂
道路線形の測量設計　同
道路構造物の測量設計　同
河川発電水力計画に伴う測量設計　同
田中達夫
エンジニアのための英文手紙の書き方
工学図書
土木学会編
衛生工学実験指導書　現場調査編
土木学会
山崎不二夫編
水資源を考える　三共出版
斎藤正男
大学課程　電子回路演習 1, 2　昭晃堂
日本機械学会講演論文集
日本機械学会
吹抜敬彦
画像のディジタル信号処理
日刊工業新聞社
ブルーバックス
317　トイレットからの発想　講談社
454　科学論文をどう書くか　同
エンジニアリング講座
27　構造工学の基礎　共立出版
28　固体の強度　同
土木工学大系
15　設計論　彰国社
26　交通　同
32　ケーススタディ　橋　同

新体系土木工学
11　構造物の耐震解析　技報堂出版
12　土木構造設計法　同
34　プレストレストコンクリートの力学
同
49　社会資本と公共投資　同
57　都市計画（Ⅱ）　同
62　道路（Ⅰ）　同
68　同（Ⅱ）　同
プラスチック材料講座
1　エポキシ樹脂　日刊工業新聞社
12　アクリル樹脂　同
15　フェノール樹脂　同
18　塩化ビニル樹脂　同
G.P.Cherepanov
Mechanics of Brittle Fracture
Mc Graw-Hill
J.T. Oden
Mechanics of Elastic Structures　同
John J. Burke
Nondestructive Evaluation of Materials　Plenum
K.J. Miller
Mechanical Behaviour of Materials vol.1～3　Pergamon
Csszonyi
The Continuum Theory of Rock Mechanics　TTP
J.E. Zajic
Water Pollution disposal and reuse　Dekker
M. Klesnil
Fatigue of Metallic Materials　Elsevier
G.G. Garrett
Engineering Applications of Fracture Analysis　Pergamon
Rock Mechanics in Japan vol.3　土木学会
E.E. Halmos Jr
Construction Away of Life
A. Romance　WCP
Ted Ruddock
Arch Bridges and Their Builders 1735～1835　Cambridge
Nonlinear and Dynamic Fracture Mechanics　ASME
D.R.J. Owen
Finite Elements in Plasticity
Pineridge Press
D.Allan Firmage
Modern Engineering Practice
Garland
Harry H. West
Analysis of Structures An Integration of Classical Modern Methods　John Wiley
Donald E.Breyer
Design of Wood Structures
Mc Graw-Hill
Michele Melaragno
Simplified Truss　VNR
A General Introduction to Fracture Mechanics　MEP

産　業

土壌物理性測定法　養賢堂
V.G. ディティアー
生態系と人間　岩波書店

芸　術

松山千春写真集　熱流　小学館
加藤周一
エロスの美学　朝日出版社
鈴木陽　基本写真　技報堂出版
丸山吉五郎
陸上競技入門　講談社
マーシャル・ホフマン
ザ・スポーツメディスンブック
ブックハウスHD
ブルーバックス
461　野球の科学　講談社
447　トレーニングの科学　同
新修日本絵巻物全集別巻
2　天神縁起絵巻　八幡縁起　天稚彦草紙
鼠草紙　化物草子　うたたね草紙
角川書店
日本古寺美術全集
20　観世音寺と九州・四国の古寺　集英社
25　三十三間堂と洛中・東山の古寺　同
古寺巡礼奈良
7　当麻寺　淡交社
8　西大寺　同
9　唐招提寺　同
10　室生寺　同
11　興福寺　同
12　霊山寺　同
13　長谷寺　同
14　東大寺　同
15　薬師寺　同
16　松尾寺　同
浮世絵聚花
13　ベルギ王立美術歴史博物館　アムステルダム国立美術館　小学館

語　学

日米口語辞典　朝日出版社
新英和活用大辞典　研究社
文化比較の英会話　同
北川大意
新英文手紙の公式　ジャパンタイムズ

大野晋　角川類語新辞典　角川書店
井上ひさし
私家版日本語文法　新潮社
仙覺明保編
学研漢和大字典　学研研究社◆
石山宏一
現代用語を英語にする辞典　グロビュー社
森浩二　英語のジョーク 1.2　創元社
西田ひろ子
アメリカ感覚Q＆A　同
中村保男
英和翻訳表現辞典 1.2　研究社
小西友七編
英語基本動詞辞典　同
D. フライ
ことばを語る動物としての人間ホモロクエンス　こびあん書房
初級英英辞典　マクミラン出版
Friedrich Pollmann
中級英英辞典　同
大きな活字の漢字表記辞典　三省堂
日本国語大辞典
10　む～ん　小学館
ブルーバックス
421　暗号の数理　講談社
Michael Swan
Practical English Usage　Oxford
Webster's Beginning Dictionary
Merriam
Clarence L. Barnhart
The Second Barnhart Dictionary of New English　BB
The Concise Oxfod Dictionary
Oxford
Charlton Laird
Webster's New Word Thesarus
World Publishing Company

文　学

文学　1981　講談社◆
有島武郎全集 9　筑摩書房◆
図説歌石大観　角川書店
上田敏全集 8　教育出版センター
アララギ第20巻　同
第21巻　同
第22巻　同
第23巻　同
庾子山集 1～3　中華書局
馬場あき子
鑑賞与謝野晶子の秀歌　短歌新聞社◆
トルストイ
戦争と平和　上　中　下　東海大学出版会
松本清張
作家の手帖　文芸春秋
近藤春雄
長恨歌・琵琶行の研究　明治書院
小西甚一
俳句の世界　研究社出版◆
吉田満　敵艦の世代から　講談社◆
秦恒平　風の裏で　文芸春秋◆
森山重雄
西鶴の研究　新読書社
小田切進
文庫へのみち　東京新聞出版局
新潮現代文学
5　まぼろしの記・蜜蜂が降る　新潮社◆
8　荒魂・葬苑物語　同◆
15　芭蕉庵　桃青　チニヤンの末日　同◆
62　甘い蜜の部屋・恋人たちの森　同◆
79　新釈遠野物語・藪原検校　同◆
80　聖・要塞　同◆
ロマンロラン全集
14　伝記 1　ベートーヴェンの生涯　ミケランジェロの生涯　トルストイの生涯　ミレー　マハトマガンジー　みすず書房◆
21　芸術研究 2　ありし日の音楽家たち　今日の音楽家たち　同◆
33　ローマの春　ファルネーゼ宮へ還る　同◆
日本詩人選
30　雷雨山　筑摩書房
明治文学全集
26　根岸派文学集　同◆

～～読んでみませんか～～

913.6「春の道標」　黒井千次　新潮社

戦後すぐの青春はこんなに清潔でプラトニックだった。通学の途，白い柵の小道で会った少女への思慕。

289「シュリーマンの生涯」　A.ストーン　新潮社

伝説の三大古代都市を発掘する夫に絶えず寄り添って助けた，ギリシャ人の妻ソフィアの愛の物語。

当館の歩み　6～9月初

56. 6.12　学生用雑誌の過年度号を希望者に長期貸出
6.17　ビブリア No.43 を発行
6.22　閲覧室内の絵額を掛け換え　（会計課と美術クラブの好意による）
7. 1　第3回図書委員会一図書購入費の配分案
7. 6　ビブリア号外56年度　No.2
（夏休みの貸出しと開館）
7. 8　教官会議で学生用図書購入費¥4,009,000の分類別配分額が決まった。
7.10～16　教官研究図書の定期検閲
7.11～18　夏休み特別貸出し
7.18～25　一般図書の定期検閲
8. 1～31　初めての夏休み特別開館
9. 9　第4回図書委員会
1.　ビブリア編集案
2.　図書館協議会からの加入勧誘の取扱い
3.　図書選定
9.14　学生図書委員によるアンケート　3年生の「友だちにも読ませたい本」
9.17　ビブリア号外 No.3「この本の行方を誰か知りませんか？」を発行